

『ポーランド映画祭2019 in 真庭中央図書館』を開催した

シネマニア

活動の目的

真庭では映画の単発上映はあるが、特集上映会はない。特集上映を実施し、1つのテーマを多面的に学び楽しむ機会をつくり、多面的な視野を持つことの面白さや大切さを地域で共に学びたい。また専門家・ゲストを招き、普段の里山生活では知ることのできない世界や景色、文化や民族、歴史や環境について、地域内外の人と楽しみながら学び交流するとともに、表現の可能性や豊かさやふれあい、里山の中でも文化的に楽しく学べる場、映画ならではのスペシャルなまなびの場づくりを行い、映画による地域文化振興を目指す。

活動の内容及び経過

スケジュール：

- 4～7月 作品選定、企画検討、概要決定
- 8月 宣伝
- 9月 実施

内容：

- 1) ポーランド映画の上映（3作品各3回、計9回）
 - 2) ポーランドの文化と歴史についてのゲスト講演×2回
 - 3) ポーランドお茶会（ポーランド菓子（実演）とハーブティー）の開催×2回
 - 4) 地域座談会の開催（テーマ：障がいとは何か？）
 - 5) バリアフリー上映（1作品）※無料音声ガイド貸出
- ※高校生以下は全て無料
※講演・座談会は無料（映画鑑賞なしでも参加可）

活動の成果・効果

- ・ 観客・ゲスト・地域住民に好評！映画文化がまなび・観光・地域活性化につながった：真庭市中央図書館において、初めての映画祭開催。パブリックな場での開催で、参加者も多く、どのプログラムも好評だった。企画内容や組み方も喜ばれた。毎日参加した人、一日に何本も観賞した人、また次の映画祭を楽しみにする声も多かった。『ポーランドの事を知らなかった。映画やトークで興味が深まった。実は、その後本やネットでかなり調べている』『映画なしでお茶会だけ参加。お菓子が美味しかった。家でもつくりたい』『あまりに良いのでまた見に来た』『上映の合間に勝山観光も楽しめた』『泊まりで来た。夜は勝山のお酒を楽しむ』『3日間いつでも来れるのが良い』『トークがやはり良かった』『お茶会で現代の明るいポーランドの一面にたっぷり触れることができて良かった』『座談会もあり、障がいのことを改めて考えた』『初めて



図書館に来た』など、映画文化がまなび・観光につながり、真庭市中央図書館の活性化に寄与できることを改めて実感した。

- ・ センシティブな内容も公で共有できた：戦争や人種差別、障がいのある暮らしなど、非常に大切な事柄ではあるが、普段は公の場でなかなか話に出ない。映画を通して、窮屈なしがらみもなく、シンプルに向き合い、意見を交換できる場づくりができた。
- ・ 新チャレンジ！他分野連携であらたな映画の可能性を発見：映画と直接関係ない今回の福祉座談会的な企画は映画祭では非常にめずらしい。通常映画祭では、映画の専門家やファンが集うため、企画は映画に特化する。また、地域座談会を担当した障がい・福祉の専門家も、福祉とは直接関係のない人たちの集まりで、座組みし会話する場はめずらしく勉強になったと語った。誰でも自由に参加できる公の映画上映が他分野と連携することで、互いにとって豊かで発展的な開かれた場を創り、自らの振り返りと新たな視点も培うことができ得る、映画の新たな可能性を発見した。このような場づくりは今後継続したい。

今後の課題と問題点

映画特集上映だけでなく、様々なプログラムを実施したことで、充実度がアップし大変喜んでくれたが、連携が増えるほど、メインスタッフの負担が大きくなる。また、内容に専門性を高めていくと、ボランティアベースにも限界を感じた。

- 代表者：山崎樹一郎 ●所在地：真庭市
- TEL：080-3103-2848 ●E-MAIL：cinemanwia@gmail.com
- 設立年：2007年 ●メンバー数：10名